

『嵐が丘』と『“文学少女”と飢え渴く幽霊(ゴースト)』の人物対照表

『嵐が丘』の登場人物	『“文学少女”と飢え渴く幽霊(ゴースト)』		備考
アーンショー夫妻	九條家当主(父親)のみ登場	混血児の蒼(あおい)を外国から拾ってきて家族同様に育てる	
ヒンドリー・アーンショー	夏夜乃の後見人後藤弘庸(父の従弟)	蒼のため夏夜乃がハントをして反抗	
キャサリン・アーンショー (ハンガーストライキと拒食)	九條夏夜乃(かやの)	病床の床で蒼が外国で死亡したと聞き及んで拒食の上死亡 蛍への16歳の誕生日祝いは生物学上の父親の名前(家政婦に依頼)	ハリケーン 気性の激しさ
ヒースクリフ (拒食で死亡)	国枝蒼(=黒崎保)	黒崎保として日本に戻り復讐を始める 雨宮高志・玲子の死を招く、会社の乗っ取り 黒崎は復讐のため蛍を夏夜乃にかえようとする、夏夜乃の形代 (=夏夜乃と過ごした至福の時を取り戻す手段)	拒食症 「時を取り戻す ことができな かった」
リントン夫妻		『嵐が丘』ではキャサリンとヒースクリフを引き裂く役目のため必要	
エドガー・リントン	雨宮高志	夏夜乃と結婚	
イザベラ・リントン	雨宮玲子	黒崎と結婚	
ヘアトン・アーンショー	櫻井流人	「屋の少年」 蛍を夏夜乃を通してみたりしない、好きであると告白	
キャサリン・リントン	雨宮蛍(=夏夜乃の幽霊) アイデンティティの喪失	母の大好きな蒼に憧れていたため、黒崎の正体がわかるが、秘密にする 母の遺品から黒崎が父であることを知るが、秘密にする。形代を拒否したい	拒食症が原因 で死亡か
リントン・ヒースクリフ	国枝蒼	蛍の初恋の人であるが、蒼は蛍を身代わりしているだけ	
ネリー・ディー (語り手兼家政婦)	姫倉麻貴(語り手) 和田佳枝(雨宮家の元家政婦) 若林さん(九條家の元家政婦)	太字で語られる彼と彼女の物語の語り手であるが、蛍の望みを叶えるため にストーリーに介入してくる、「自由な魂」を持つ蛍を支配しようとする 彼と彼女の物語に『嵐が丘』の構図を持ち込む	
ロックウッド(語り手)	井上心葉(このは)	普通の活字体で語られる物語の視点人物兼語り手 最終的に麻貴の語る物語と自分が語る物語をこの本として執筆	「時を取り戻す ことはできない」
	天野遠子	蛍の物語と『嵐が丘』の類似性、相違点に気づく 探偵役	異食症(紙)

最初はハッピーエンドのためにヘアトン役の流人を考えたのではないか。プロットは『嵐が丘』から逸脱していくが。

『嵐が丘』の構図になり得なかったのは、蛍がヒースクリフ(黒崎)の娘だからと言う麻貴

野村美月『“文学少女”と飢え渴く幽霊(ゴースト)』(2006,ファミ通文庫)

Emily Bronte, Wuthering Heights, 1930, Oxford University